

“だ液を採るだけ”の、がんリスク判定ツール

株式会社 サリバテック

- 代表者名
- 所在地
- 認定区分
- 認定事業名
- 認定日

代表取締役 砂村眞琴
山形県鶴岡市覚岸寺字水上246番地2
新連携事業
唾液がん検査サービス事業における非医療機関での検査可能な環境構築
平成30年6月8日

“だ液を採るだけ”カンタン、痛くない、複数のがんリスクに対応した検査キット

本事業は「だ液がん検査サービス事業によるセルフ・ヘルスケアシステムの構築」をゴールとするものだ。“サリバチェッカー(SalivaChecker®)”と名付けられた器具を使い、だ液を採取、がん細胞から染み出す代謝物を分析することで肺がん、肺がん、大腸がん、乳がん、口腔がんの5つのがんの「今」時点のリスクを調べることができる。

わが国においては、がん罹患率が高く、生涯で2人に1人ががん患者であり、死亡率は男性25%、女性16%であると報告されている^{注1)}。今後は、がん罹患患者の絶対数の増加と、医療の高度化による二重の医療費増加に伴い、新しい検査体制や治療といった医療のパラダイムシフトが必要となることが予想され、本技術はその中核をなすものと期待されている。



“サリバチェッカー”のメカニズム

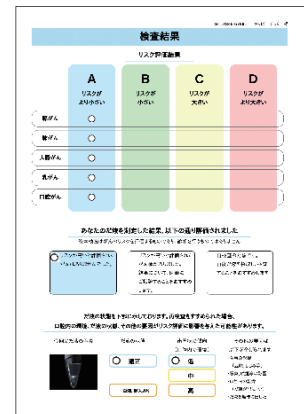
“サリバチェッカー”によるがんのリスクの発見メカニズムは下記のとおりである。

注1) 国立がん研究センターHP「最新がん統計」https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html



採取しただ液成分を人工知能(AI)が解析し、臨床研究データと照合して現在のがんのリスクを測定する。

「家族や友人にがんの人がいて不安だ」というケースはよく耳にする。しかし、検査を受けるのはカラダにも負担であり、昨今ではコロナ禍で検査そのものを受けることも不安であるという声もよく聞かれる。“サリバチェッカー”は、だ液を採るだけなのでそういった「負」の要素を軽減する。1回の検査にかかる費用は、受ける機関によって多少の違いはあるが30,000円前後である。



検査報告書のサンプル

“サリバチェッカー”の開発と起業

株式会社サリバテックの代表取締役である砂村眞琴氏は、“サリバチェッカー”の実用化を後押しする2つの言葉に出会う。

「あなたの研究は面白そうだけど、何か社会の役にたっているの？」

砂村氏が大学で医学研究をしているときにか
けられた言葉である。「病気を研究して論文を
書く」、これは研究者としての使命ではあるが、
自分たちの研究をベースに何を社会にフィード
バックできるかを試行錯誤するなかでたどりつ
いたのが「だ液によるがん早期発見プロジェクト」
であるという。そしてもう1つが、

「その志はビジネスとして成功させたとき初
めて実現する」

プロジェクトの事業化をアクセラレートする
言葉である。この言葉に背中を押されて“サリ
バチェッカー”の実用化に向け始動、関係機関
での臨床研究の協力や周囲の援護も受け「株式
会社サリバテック」を鶴岡市先端研究産業支援
センター内にスタートする。砂村氏は「研究は
わくわくしながら進むので苦労はないですよ」
と話すが、事業となると「周知」「販路の構築」
という壁に遭遇する。未踏の地を進む製品であ
る“サリバチェッカー”と相性のいい販路はどこ
かを模索するなかで、反応を示してくれたのが
歯科医である。歯科医院数は全国に68,000近
くあり、ポテンシャルとしては十分な規模である。
2020年にはカイゲンファーマ株式会社の衛生検
査所でも測定業務が開始された。その他にも、
企業の福利厚生として本検査を提供、コロナ禍
でも自宅で検査できる「@ホームサービス」の発売、

鶴岡市ふるさと
納税返礼品にヘル
スケア品目とし
て異例の初出品
など、従来の“医
療事業”の商慣
習にとらわれない
事業の展開を始
めている。



医師でもある 砂村眞琴 氏(代表取締役)

人びとの生活様式を変える “セルフ・ヘルスケア”という考え方

砂村氏は、臨床家であり教育者であり研究者
として幅広く活動する一方で、東京都練馬区に
ある大泉中央クリニックの院長でもある。一般
社会との温度差に対してアンテナを張ることが
重要であり、常に第三者の視点を積極的に求め
て自己変革を続けることをポリシーとしている
という。

“サリバチェッカー”も「最初から描いたゴー

ルではなく、社会環境の変化のなかでこういう
ものができてきた。ただ、そのなかで感じるの
は“ヘルスケア”とは与えられるものではなく、
生活者自身で行うものであり、意図的に早期が
んを見つける行動を後押しするものに仕上げて
いくことが“サリバチェッカー”のミッション」
と話す。“サリバチェッカー”開発のベースとな
ったメタボローム研究は肝臓等、細胞の活動によ
って生じる代謝物質の異常を分析する研究である
ため、がんだけでなく、将来は生活習慣病や
働く人たちの体を守るプロジェクトにも応用で
きるとしている。

わが国では法律で年1回の健康診断を受けら
れる体制が築かれている。しかし、同氏は「は
たして年1回の検査には根拠があるのだろうか?」
と疑問を投げかけている。「もっと頻繁に検査を
受けることで、早い段階でがんを見つける仕組
み＝「セルフ・ヘルスケア」の体制を確立するこ
との必要性を提唱している。そのためには簡単
で身体に負担の少ない検査が適しており、“サリ
バチェッカー”による検査は最適である。

まもなく人生100年時代が到来するといわれ
ているが、健康寿命を長くすることが“本来の
長生き”である。年1回の定期健康診断は重要
であるが、そこにわずかのコストを加えて「が
んの早期発見のためのセルフチェック」を加え
ることは、短期的にはコスト増加にも見えるが、
同社のサービスは将来的に、がん以外の生活習
慣病への応用も可能であるといわれ、長期的に
は保険料等の社会コストを下げっていく効果もあ
ると思われる。

“サリバチェッカー”が広まり、今後の世界標
準となることを期待している。

※SalivaChecker、サリバチェッカーは株式会
社サリバテックの登録商標です。

農商工
地域資源活用
新連携の認定事業計画
検索はコチラ ▶▶▶



独立行政法人 中小企業基盤整備機構
経営支援部 企業支援課 石坂 尚